

「再犯防止×地方創生」トピックス

矯正施設所在自治体会議要望書を法務大臣に提出しました！

本年3月25日、矯正施設所在自治体会議の会長である高野律雄府中市長と副会長である水谷洋一網走市長が法務省を訪問し、小泉龍司法務大臣に対して、矯正施設所在自治体会議の要望書を提出しました。

この要望書は、令和5年度、有志会員自治体により実施された地方創生研究会（前号トピックス参照）において検討した内容をもとに、地方公共団体が「再犯防止にも地方創生にも資する取組」を着実に進めていくため、地方公共団体への基盤整備支援と矯正施設の有する人的・物的資源の更なる活用を法務省に求めたものです。

要望書を受け取った小泉大臣からは、「矯正施設所在自治体を持つ素晴らしいアイデアを形にしていくため、今回いただいた要望書に対する支援を着実に行っていきます。」とお言葉をいただくなど、矯正施設所在自治体の取組に期待を寄せられている御様子がかがえました。

懇談の際には、高野市長から、府中市が府中刑務所と連携して製作した、府中市に所在するスポーツチームのエンブレム等が描かれたトートバックが、水谷市長からは、日本体育大学附属高等支援学校が栽培したブドウを用いて今年醸造されたばかりのワインがそれぞれ披露され、こうした矯正施設所在自治体と矯正施設が連携して取り組む「再犯防止×地方創生」の先駆的な取組について、小泉大臣はとても感心されていました。

令和6年度も、矯正施設所在自治体会議として、本機関誌の発行、その他会員自治体同士の情報共有や有益となる取組について、皆様からの御意見、御要望を反映させながら活動を進めていく予定です。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



要望書を手交する様子
(向かって左：小泉法務大臣、右：高野府中市長)



要望書を手交した後の記念撮影
(向かって左：高野府中市長、中央：小泉法務大臣、右：水谷網走市長)



府中市所在のスポーツチームコラボトートバックについて説明する様子



網走市リエントリー事業において栽培されたブドウを用いて醸造されたワインについて説明する様子

（事務局から）

今回網走市から御紹介いただいた「リエントリー事業」は、まさしく自治体と矯正施設が連携し、矯正施設が持つ特色（今回は広大な土地）を生かして地方創生（地元企業の発展、観光需要の発掘等）につなげる取組の一つです。

所在する矯正施設を見学するなど、施設で勤務する職員と積極的に交流することで、自治体ごとの再犯防止施策や地域

の発展につながる糸口が見えてくるかもしれません。

矯正施設の扉は物理的にも心理的にも高く見えるかもしれませんが、関係機関等からの見学を積極的に受け入れているとのこと。見学や参観を希望する場合には、是非矯正管区や矯正施設の担当者と連絡を取ってみてください。また、御要望があればお気軽に事務局までお問合せください。

Revitalization

そらせい

×

きょうせい

Correction



Vol.05
2024 Spring

- 北海道網走市の御紹介
～リエントリーのその先へ～
- 網走刑務所の地域との連携した取組
～地域と共に歩み続ける施設に～
- 「再犯防止×地方創生」トピックス
矯正施設所在自治体会議要望書を法務大臣に提出しました！

北海道網走市の御紹介

～リエントリーのその先へ～

北海道網走市は、北緯44度、東経144度の北海道東部に位置する面積471平方キロメートル、人口約3万3千人（令和6年1月末現在）の自治体で網走番外地やゴールデンカムイで有名になった、網走刑務所が所在するほか、冬季には、アムール川の河口でできた「流水」が接岸します。流水が接岸することもあり、厳寒で豪雪地帯とのイメージがありますが、「北海道の中では」冷え込みも穏やかで、年間降水量・降雪量・災害が少なく、過ごしやすい気候のまちです。

晴れた日には「オホーツクブルー」と言われる鮮やかな空の色が見られるほか、大小5つの湖もあり、中でも濤沸湖（とうふつこ）は、ラムサール条約の登録湿地に認定された野鳥の宝庫です。また、「天上の都に在るような心地にさせるほど美しい」と評される360度パノラマの名勝天都山（てんとざん）や網走川など、四季折々で姿を変える素晴らしい自然が列挙できないほど多くあります。

他にもこの大自然の中で育む農業・畜産・漁業が非常に盛んであり、中でもカニ、うに、いくらといった海産物は、ふるさと寄付の返礼品として人気です（是非お試しください！）。

網走では、網走刑務所、当市、民間の企業・団体が連携・協力の下、同所が有する資源を利活用しながら、再犯防止と地域活性化の取組を行うことを目的として、「リエントリー事業」を実施しています。具体的には、日本の刑事施設の中で最も広い面積を有する網走刑務所の広大な土地のうち、近年の受刑者数減少等の理由から現在は未利用となっている農地や森林の一部（約23ヘクタール）について、同所からの使用許可を得た上で、地元の西洋わさび生産会社、農業協同組合、高等支援学校がブドウ、かぼちゃ等の栽培を行っています。また、令和5年の秋には受刑者、地元高等支援学

校の生徒・教職員、保護観察官、保護司、保護観察対象者等さまざまな立場の方が栽培されたかぼちゃを収穫しました。

さらに、本事業の一環として、国内で消滅しつつある日本伝統工芸の木桶製作を香川県小豆島等から木桶職人をお招きし、実施しています。はるか昔、網走刑務所の受刑者が作っていた木桶を再び網走の地で製作する取組であり、受刑者、市民、観光客、地元学生など多くの方が協働して作った木桶は、リエントリー事業の委員でもある酒造会社に運ばれ、日本酒醸造に使用されています。

本事業は、受刑者の再犯防止を大きな責務の一つとする矯正施設の人的・物的資源を活用するものであるため、受刑者の社会復帰を見据えた再犯防止に資する取組を図るとともに、再犯防止は地域社会との共生により成り立つものであることから、産業育成や雇用創出等の地域振興にも配慮した事業を行う必要があります。まだまだ道半ばではありますが、近い将来、本事業の取組が地域の活性化、刑務所出所者等の雇用機会の創出に寄与するものとなるよう関係機関との連携を強化し、推進していきたいと考えています。



かぼちゃ収穫の様子



木桶完成お披露目会
（左から網走市長、森町長、網走刑務所長、上川大雪酒造社長）



木桶製作の様子

網走刑務所の地域との連携した取組

～地域と共に歩み続ける施設に～

網走刑務所は、明治23年3月、現在の地に、釧路監獄署網走囚徒外役所が設置されたことを始まりとして、網走から旭川に通じる中央道路の開削の基地として設けられました。多数の受刑者の犠牲の下、翌24年4月から同年12月までの約9か月間という驚異的な速さで中央道路（約160km）を完成させた後も、原野の開墾を進めるなど、農園刑務所として再出発して、今日に至っています。その過程において、幾度か、名称の変更や組織改編が行われましたが、網走刑務所は、終始、この地にありました。

網走刑務所の特色の一つとして、二見ヶ岡農場があります。網走市郊外にある農場で、開放的施設（いわゆる塀のない刑務所）となっています。北海道東部の厳しくも豊かな大自然（冬は外気が-20℃を下回ることがあり、流水がきしめく厳寒の地となります。）という環境を活用し、外塀の外という一般社会に近い環境下において、四季折々の自然を肌で感じながら、畑を耕したり、牛の世話をしたりするなど、様々な作業体験を通じて、勤労の習慣や健康な体を培い、社会適応性を身に付け、円滑な社会復帰ができるような取組を行っています。

令和3年度から、網走刑務所が所在する網走市や同所の住吉農場（住吉作業所）が所在する大空町と連携し、各自自治体において、網走刑務所の土地の一部を活用し、受刑者の再犯防止と地方創生のため、農作物を生産して、新たな商品を開発するなどの取組が行われています。



約70頭の肉牛を飼育する二見ヶ岡農場



能取岬周辺の除草作業の様子

また、再犯防止と地域活性化の取組推進のため、大空町と包括連携協定を締結し、さらに、大空町の道の駅とも連携協定を締結して、常設の刑務所作業製品展示即売所を設け、限定のコラボ商品を販売するなどの取組が行われています。

これ以外にも、平成27年から、網走オホーツクマラソン開催の関係で網走市と連携しており、網走刑務所のシンボルであるレンガ造りの旧正門をスタート位置として提供するほか、記念メダルの製作やマラソンコースである能取岬（のとりみさき）や網走湖周辺の除草作業に受刑者が関わっています。

受刑者が製作した記念メダルや景観の良い能取岬などの観光スポットを走ることが、同マラソン参加者の満足度を高めているという声が聞かれます。また、除草作業に関わった受刑者からは、「人の役に立つことの喜びを受けることができた。」「ボランティアなどをしたことがない自分ですが、今やっていることが誰かの役に立っているということが、まだ自分は社会とつながっている、もう一度やり直しの機会を許されているかのように感じました。」などの感想が寄せられています。

網走刑務所は、令和6年4月で開基135年目となります。同年2月、二見ヶ岡農場に新しい牛舎が完成するなど、より良い環境下で処遇できるようになりました。拘禁刑の施行など変革期を迎えるにあたり、地域との連携を更に強化し、地域住民から理解され、愛され続ける施設でありたいと思います。



レンガ造りの旧正門（大正11年完成。現在、耐震改修工事中）



令和6年2月に完成した二見ヶ岡農場の新しい繁殖牛舎